

# 付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成29年2月15日～26日に陸奥湾5定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

## 1 ラーバ等の出現数

### (1) キヌマトイガイ(コメガキ)

ラーバは、奥内沖で20.8個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で95.6個体/m<sup>3</sup>、野辺地沖で301.6個体/m<sup>3</sup>、川内沖で177.3個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図2)。

### (2) ムラサキイガイ

ラーバは、奥内沖で2.5個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で1.7個体/m<sup>3</sup>、川内沖で20.3個体/m<sup>3</sup>見られました(表1、図3)。

### (3) その他

オベリア(クサ)のクラゲとユウレイボヤのラーバは見られませんでした。蟹田沖で2mm前後のアミクサの小片(切れ端)が75.0個体/m<sup>3</sup>見られました(図4)。

## 2 水温の状況

各ブイ中層の2月27日の日平均水温は、表2のとおりで、西湾では6～8℃台、東湾では2～5℃台です。

## 3 今後の見込み

### (1) キヌマトイガイ

ラーバは、12月下旬から継続して出現しているため、付着が進むと思われます。

### (2) ムラサキイガイ

秋の分散後におけるラーバの出現数は昨年度より多いため、今春の付着は多いと思われる。

### (3) その他

秋の分散後におけるユウレイボヤのラーバ出現数は昨年度より少ないため、今春の出荷時には大型個体の付着は少ないと思われる。

今回、オベリア類のクラゲは見られませんでした。今後、春にかけて出現する可能性があります。

アミクサは寒天を固くする材料となる紅藻(写真)です。アミクサの小片が多く見られる地区では、パールネットに入り込んだアミクサの小片が生長し、夏にかけて繁茂する可能性があります。

表1 ラーバ等の出現数 単位:個体/m<sup>3</sup>

調査地点	調査月日	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ
蟹田沖	H29.2.26	0.0	0.0
奥内沖	H29.2.15	20.8	2.5
久栗坂沖	H29.2.16	95.6	1.7
野辺地沖	H29.2.15	301.6	0.0
川内沖	H29.2.16	177.3	20.3

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

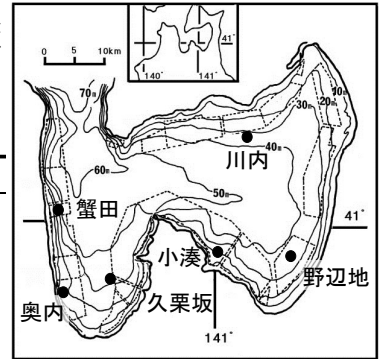


図1 ラーバ調査地点

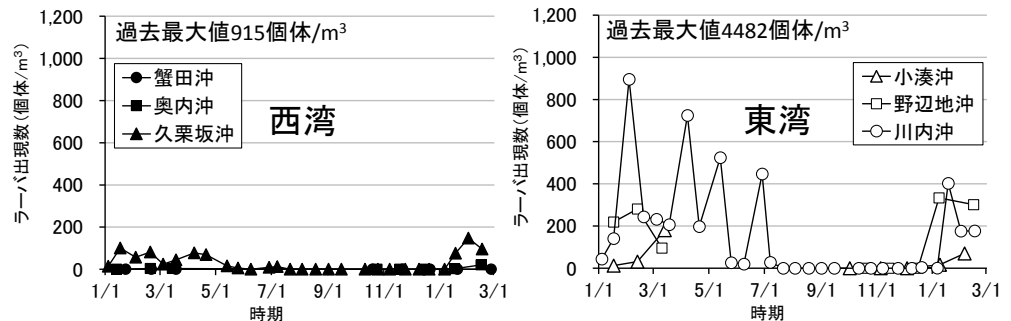


図2 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(平成28年1月～平成29年2月)

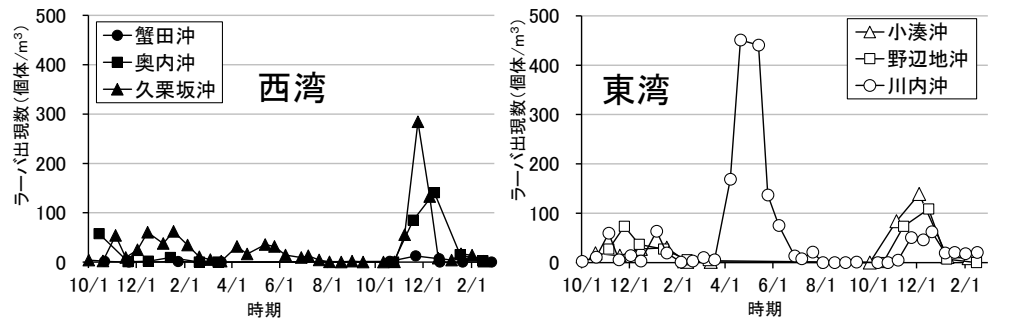


図3 ムラサキイガイラーバ出現数の推移(平成28年10月～平成29年2月)

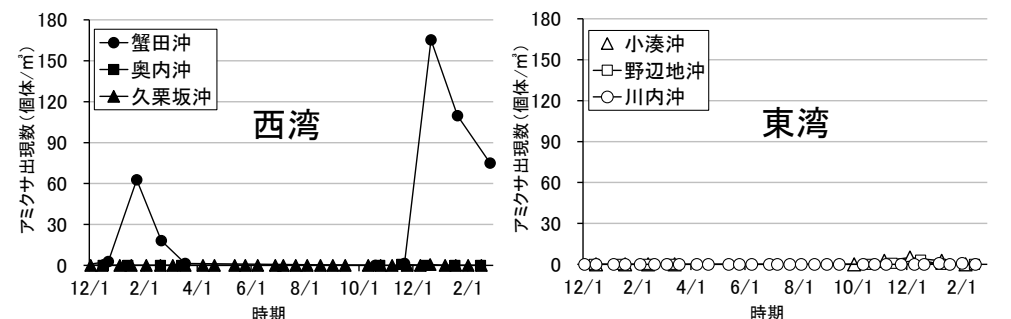


図4 アミクサ小片出現数の推移(平成27年12月～平成29年2月)

表2 各ブイ中層の日平均水温

西湾観測地点	水温(℃)	東湾観測地点	水温(℃)
平館ブイ	8.3	東田沢ブイ	-
蓬田ブイ	7.9	野辺地ブイ	5.4
奥内ブイ	6.9	横浜ブイ	4.3
青森ブイ	6.9	浜奥内ブイ	2.8
浦田ブイ	-	川内ブイ	5.0
		東湾ブイ	4.1

※平館、青森、東湾は15m層、それ以外は10m層



写真 パールネットに繁茂したアミクサ(6月)

